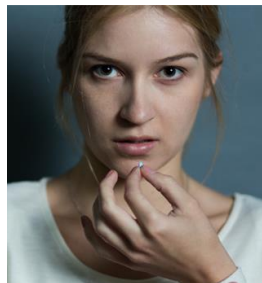


## 副作用 - HIV 薬、パート 3



抗レトロウイルス療法または ART と呼ばれる HIV 療法は、HIV 投薬計画に従って複数の HIV 薬を服用する療法です。HIV 薬は、HIV 感染者がより健康に、より長く生きることができる効果をもたらしますが、同時に副作用もあります。副作用の多くは軽度のもですが、中には重度のものもあります。

様々な HIV 薬にはそれぞれ異なる副作用があります。また、同じ HIV 薬を服用していても人によって副作用は全く異なります。

新しい HIV 薬の副作用は、従来の HIV 薬に比べて減少しています。医療機関があなたとともに HIV 投薬計画に最適な薬を判断してくれます。

HIV 薬を服用している方は、担当の医療機関に副作用について話しましょう。頭痛や時折起きるめまいなどは、深刻な副作用でない場合があります。しかし、顔、目、唇、喉、舌に腫れが見られる副作用は重度で、早急に医療ケアが必要となります。



こういった副作用は HIV 薬とまったく関係ない場合があります。副作用は、HIV ではない他の病状、たとえば治療可能な感染症によって引き起こされている場合もあります。医療機関は副作用が HIV 薬によるものなのか、あるいは他の病状によるものなのかを判断してくれます。

副作用はたったの数日から数週間で治まる場合もあれば、ずっと長く続く場合もあります。HIV 薬の服用を開始してから数カ月、あるいは数年間にわたって、副作用が出ない場合もあります。医療機関は副作用を減らすために、HIV 薬を変更する場合があります。HIV 投薬計画で使用される HIV 薬には多くの種類があります。



医療ケア提供者の指示以外で HIV 薬を減らしたり、服用しなかったり、止めてしまうことはしないでください。

HIV/エイズに関して疑問がある場合は、必ず解決してください。公衆衛生局または医療機関に問い合わせるか、公共図書館にてお調べください。

Text is from HIV/AIDS sources from the Department of Health and Human Services and adapted by HealthReach and Healthy Roads Media. This project has been funded in whole or in part with Federal funds by the National Library of Medicine award number HHSN276201500011I awarded to the Center for Public Service Communications. Images from iStock.com.